

# 静岡県におけるフィールド・トライアル 殊にビタミンK予防的投与とその追跡

浜松医科大学産婦人科

寺尾俊彦, 嵯峨こずえ

## 緒 言

静岡県では昭和56年8月に静岡県乳児VK欠乏性頭蓋内出血症対策委員会が結成され、昭和57年2月よりHepaplastintest(HPT)によるスクリーニングが行われ、HPT低値例に対しては委員会が決定した処置基準に従いVKを治療的に投与してきた。また、一部の施設では母体や新生児にVKが予防的に投与されている。HPT値およびVK投与状況は調査票に記入され、浜松医科大学産婦人科へ送付されてコンピューターに入力された。本年度はVK予防的投与の効果を検討する目的で、各施設によってばらばらに行われてきた予防的VK投与法を、経口3回投与(出生後、日齢7日、日齢30日)と一定にした。かつこの投与法に準じて投与された新生児についてHPTを測定し、VK予防的投与の効果を解析し、従来のHPT低値例に対する治療的投与法との比較を行った。

## 予 防

### 1. ビタミンK治療的投与

日齢7日の新生児にHPTを測定し、HPT値の低い新生児に対し、処置基準(既報告)に従って治療的にVKを投与するとともにHPTにて追跡した。また日齢30日には全例HPTを行った。

### 2. ビタミンK予防的投与

予防的投与は、投与時期・投回数・投与経路等各施設によって一定ではない。予防的にVKを投与している施設は少なかったが、本年度は投与例を増加させた。また、出生後、日齢7日、日齢30日の経口3回投与を勧めた。浜松医科大学付属病院では、ケーツーシロップ1ml(2mg)に蒸留水を加えて10mlとした院内製剤を作り、日齢1日、日齢5日の2回を病院で投与し、シロップ1本を退院時に母親にわたし、日齢30日頃にH

P Tを検査後家庭で投与させた。

## 結 果

1982年2月より1985年7月までの間に、調査票により69220検体、41026経口のデータが入力された。VK予防的投与例が4513例(11.0%)、VK治療的投与例が1817例(4.6%)、HPTの結果VK投与の必要のなかった非投与例が34642例(84.4%)であった。1カ月後のHPT値で分類すると、全体ではHPT値 $\geq 40\%$ の例が40698例(99.20%)、HPT値 $< 40\%$ の例が328例(0.80%)、さらにHPT値 $< 20\%$ のニアミス例が37例(0.09%)あった。そのうちわけを表したものが図1である。VK予防的投与群4513例中低HPT例は98例(2.17%)、ニアミス例は3例(0.07%)みられた。VK治療的投与群1817例中低HPT例は48例(2.57%)、ニアミス例は3例(0.16%)みられた。VK投与を必要としなかった非投与群34642例中低HPT例は182例(0.53%)、ニアミス例は31例(0.09%)みられた。産科入院中にHPT値の低かったVK治療的投与群が、低HPT例、ニアミス例とも最も高くみられた。VK予防的投与群ではニアミス例の発生率が最も低かった。しかし、どの群においてもニアミス例の発生を完全には予防できなかった。

VK治療的投与群におけるVK投与後のHPT値の変化を解析すると図2の如くであった。グラフ中のスクリーントーンは、日齢に対するHPT値の平均値 $\pm$ SDである。VK投与後HPT値が上昇し、その後も新生児期における正常値を維持しつづけるA群が1871例みられた。VK投与後、一旦HPT値が上昇するが、1カ月後のHPT値が治療域まで下降するB群が8例、VK投与にかかわらずHPT値の上昇しないC群が46例みら

れた。

VK予防的投与群におけるHPT値の変化も追跡した。VKを経口で3回投与している2施設の調査結果と、非投与群のHPT値の変化を比較したものが図3である。ただし予防的投与群の日齢26日以降のHPT値は、日齢30日のVKを投与する前の値である。日齢2日をのぞき、HPT値はVK予防投与群が非投与群を上まわっているが、有意な差はみられなかった。

以上のHPTの実施およびVK投与により静岡

県における乳児VK欠乏性頭蓋内出血の発症率は、表1の如く減少している。

### 結 語

VKの予防的投与はHPT異常低値例を減少させることができ、特発性乳児ビタミンK欠乏性出血症の発生予防に効果的であると考えられるが、しかし、投与しても本症の発生を完全に0にすることは困難と考えられ、できれば日齢30日頃にHPTを行うことが望ましいと思われた。

VK投与と1ヶ月後の低HPT植例、  
ニアミス例の発生率

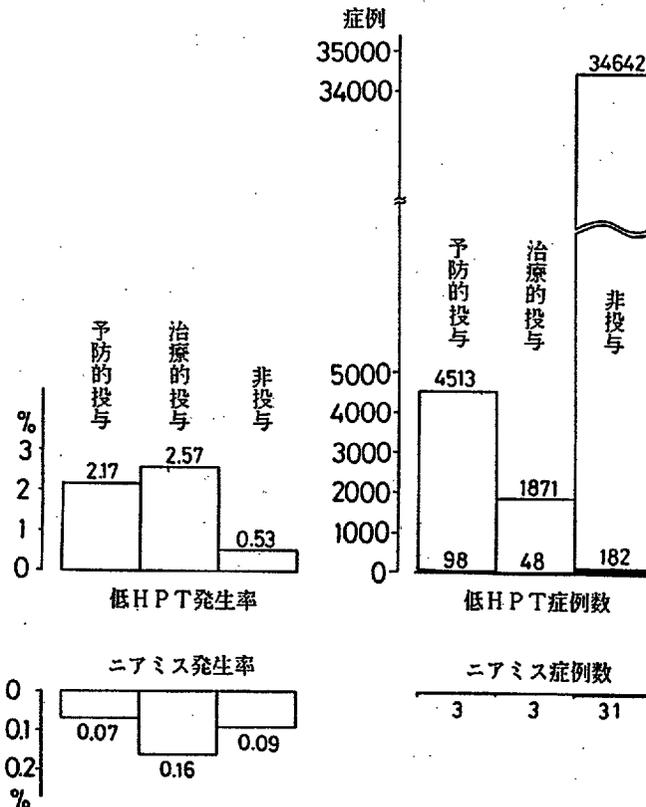
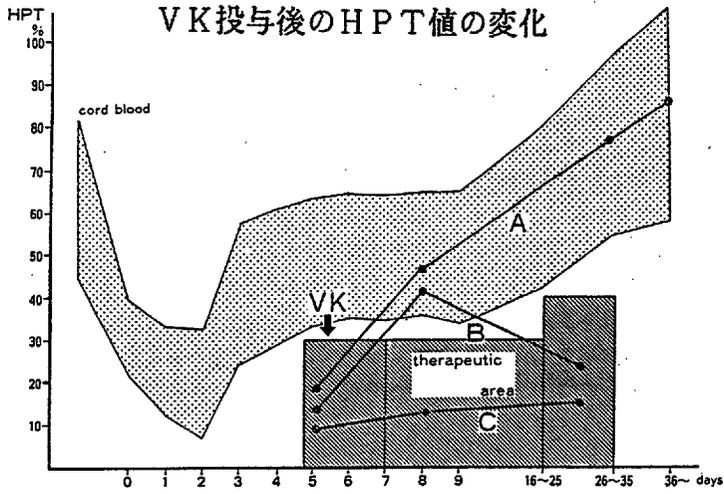


図1.



A: 1817 / 1,871

B: 8 / 1,871

C: 46 / 1,871

図 2.

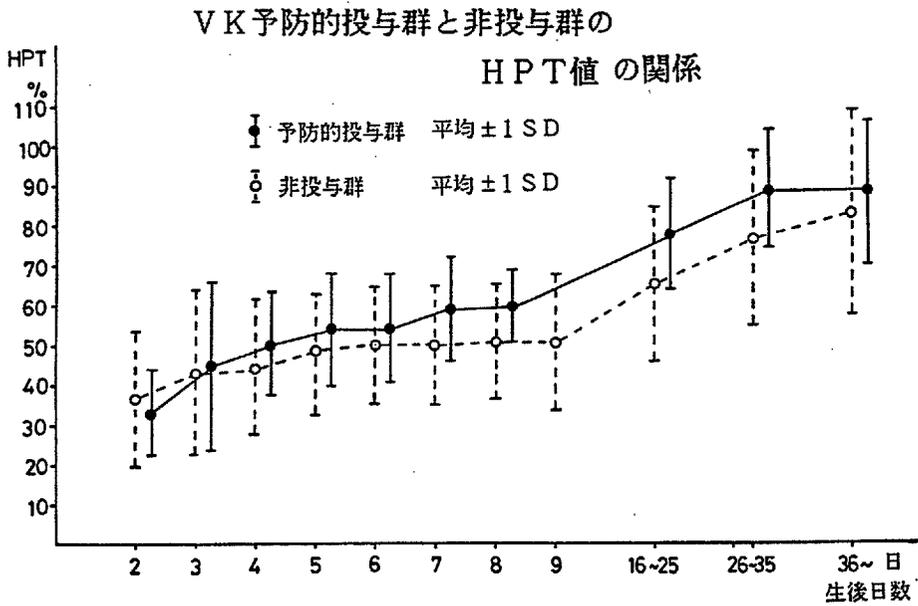


図 3.

表1 静岡県における頭蓋内出血、ニアミス発生数

	発症数	出生数	発症率	ニアミス例
昭和53年度	7	52028	1/7433	
昭和54年度	16	50632	1/3165	
昭和55年度	5	47010	1/9402	
昭和56年度	9	46742	1/5194	
昭和57年度	3	46060	1/15353	8
昭和58年度	1	45965	1/45965	9
昭和59年度	2	45641	1/22821	9
昭和60年度	0	44091	0	2

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

結語

VK の予防的投与は HPT 異常低値例を減少させることができ、特発性乳児ビタミン K 欠乏性出血症の発生予防に効果的であると考えられるが、しかし、投与しても本症の発生を完全に 0 にすることは困難と考えられ、できれば日齢 30 日頃に HPT を行うことが望ましいと思われた。